



健康事業団だより



厚生労働省 平成 30 年 3 月

「職域におけるがん検診に関するマニュアル」策定

平成 28 年国民生活基礎調査によると、がん検診を受けた者の約 30～60%が職域におけるがん検診を受けているとされており、日本のがん対策において、非常に重要な役割を担っています。しかしながら、職域におけるがん検診は、法的根拠がなく、保険者や事業者が、福利厚生の一環として任意で実施しているものであり、検査項目や対象年齢等、検診の実施方法は様々であるのが現状です。

厚生労働省は、職域におけるがん検診を効果的に行うため、「職域におけるがん検診に関するマニュアル」を策定し、保険者や事業主ががん検診を任意で実施する際の参考にしてほしいとしています。

★がん検診の種類

肺がん検診

検査内容■問診、胸部エックス線検査、喀痰細胞診。喀痰細胞診は、問診の結果、原則として 50 歳以上で喫煙指数(1 日本数×年数)が 600 以上であることが判明した者(過去における喫煙者を含む)に対して行う。

対象年齢■40 歳以上の者

受診間隔■原則として 1 年に 1 回

乳がん検診

検査内容■問診、乳房エックス線検査(マンモグラフィ)
※視触診は推奨しないが、仮に実施する場合は、乳房エックス線検査と併せて実施すること。

対象年齢■40 歳以上の女性

受診間隔■原則として、2 年に 1 回



胃がん検診

検査内容■問診、胃部エックス線検査または胃内視鏡検査 ※健康事業団では胃部エックス線検査のみ

対象年齢■50 歳以上の者。胃部エックス線については、当分の間、40 歳以上の者としても差し支えない。

受診間隔■原則として 2 年に 1 回。

胃部エックス線検査を年 1 回実施

しても差し支えない。



子宮頸がん検診

検査内容■問診、視診・内診、子宮頸部細胞診

対象年齢■20 歳以上の女性

受診間隔■原則として、2 年に 1 回

大腸がん検診

検査内容■問診、便潜血検査(2 日法)

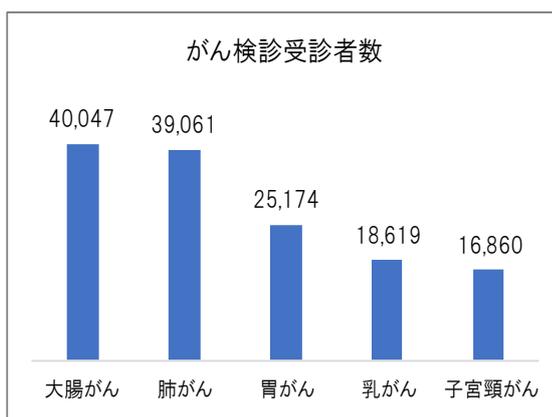
対象年齢■40 歳以上の者

受診間隔■原則として、1 年に 1 回

★科学的根拠に基づいたがん検診を提供しています

長崎県健康事業団では、「事業評価のためのチェックリスト(検診機関用)」などを参考にすでに上記マニュアルに対応し、科学的根拠に基づいた適切ながん検診を提供しています。

★長崎県健康事業団におけるがん検診実績



平成 29 年度のがん検診の受診者数は延べ 14 万人です。そのうち、がん検診を実施している事業所は延べ 580 か所に上ります。

定期的ながん検診を受けて、早期発見・早期治療を目指しましょう。

職員の健康管理の一環として、
がん検診の追加をご検討しては
いかがでしょうか



少し前にニュースで話題になりましたが、

「麻しん(はしか)」について知っていますか？



今年3月、沖縄で台湾人旅行者が麻しんと診断されて以降、接触歴があった者や同じ施設の利用者を中心に沖縄県内・県外で麻しん患者が報告され、「麻しん」の感染拡大がニュースとなりました。今後も起きる可能性はありますので、確認しておきましょう。

発生地域	特に感染力が強く、世界中で発生報告されています。日本では流行していませんが、海外では麻しんが流行している国・地域があります。 ※1000例以上麻しんが報告されている上位10か国(集計期間：H29.9～H30.2)は、インド、ウクライナ、ナイジェリア、セルビア、パキスタン、インドネシア、ギリシャ、フィリピン、中国、マレーシアです。 
感染経路	空気感染、飛沫感染、接触感染など様々な経路で感染します。免疫が不十分な人が感染すると高い確率で発症します。 
主な症状	感染してから約10日後に発症 します。海外渡航者が海外で感染した場合でも、帰国後1週間以上たってから発症することもあります。 高い熱や全身の発疹、咳、鼻水、目の充血 などが現れます。患者1,000人に1人の割合で脳炎が発生すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。その他、10万人に1人程度、重い中枢性神経疾患を発症することもあります。妊娠中に麻しんにかかると、流産や早産を起こす可能性があります。 
感染予防	感染力が強く、手洗い・マスクのみでは予防できません。 予防接種が最も有効な予防法 です。過去に麻しんにかかったことが確実である(検査で感染が確認された)場合は、免疫を持っていると考えられるため、予防接種を受ける必要はありません。
予防接種	「麻しんワクチン」もしくは「麻しん風しん混合(MR)ワクチン」(生ワクチン) 1回接種で95%以上の方が麻しんに対する免疫がつくと言われていますが、確実な免疫を得るには、99%以上の方に免疫がつくと言われる2回の接種が望ましいようです。 予防接種の接種歴は、母子手帳で確認 しましょう。接種歴がわからない場合は、かかりつけの医師にご相談ください。 生ワクチンは、妊娠している女性は予防接種を受けることができません。また、おなかの赤ちゃんへの影響をできるだけ避けるため、接種後2ヶ月程度の避妊が必要です。 ★定期接種 (1回目)1歳から2歳未満、(2回目)小学校入学前の1年間の幼児が対象です。 ★定期接種の対象外 過去に麻しんと診断されたこともワクチン接種を受けたこともない方は、母子手帳で予防接種歴を確認したうえで、医療機関にご相談ください。 1990(平成2)年4月2日以前に生まれた方は 、ワクチン接種が1回のみの場合が多いと思われます。医療従事者や学校関係者・保育福祉関係者など、感染のリスクが高い方や、周囲への影響が大きい場合、流行国に渡航するような場合は、2回目の予防接種についてかかりつけの医師にご相談ください。
麻しんにかかったかも？	過去に麻しんと診断されたこともワクチン接種を受けたこともない方で、麻しん患者と接触し、1～2週間たってから上記の症状が現れたら、麻しんの可能性があります。 医療機関へかかる場合は、事前に連絡してから受診 することをお勧めします。 



公益財団法人 長崎県健康事業団

〒859-0401 諫早市多良見町化屋 986-3
TEL 0957-43-7131 (代表) FAX 0957-43-7139
<http://www.npmhc.jp>